

Aichi-Nagoya Startup Ecosystem Consortium

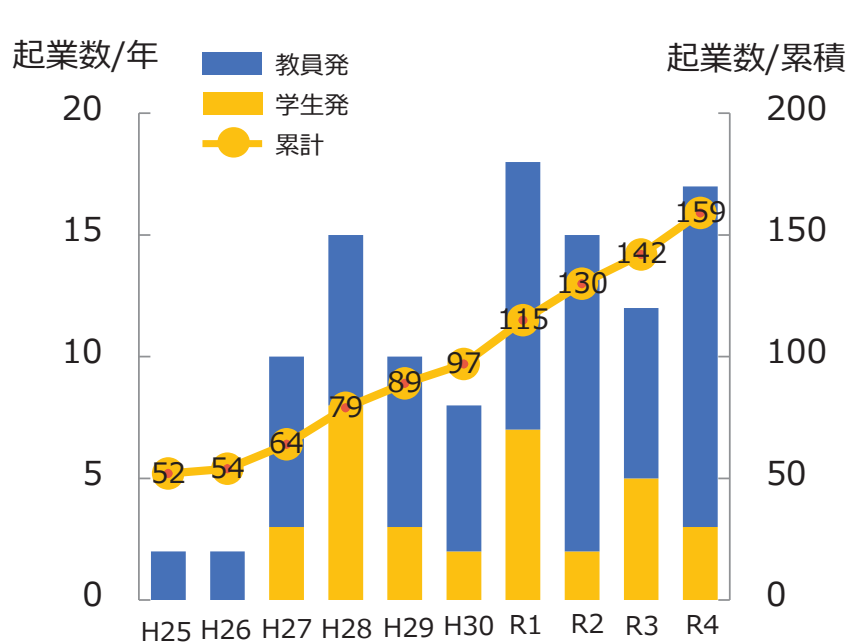
—大学の取組—

名古屋大学
(Tongali)





名大発ベンチャーの現状



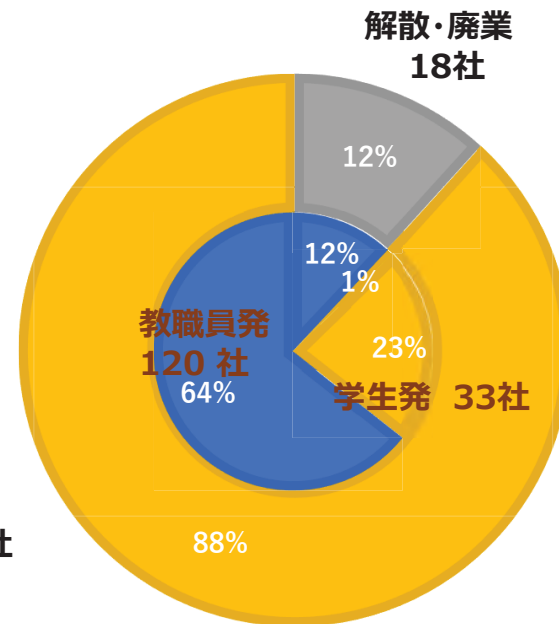
起業数の推移

H27年度からベンチャー支援、アントレプレナーシップ教育等を実施を開始した。

H28年 名古屋大学・東海地区広域大学 1号ファンド

H29年 EDGE - NEXTに採択

R3年 スタートアップ・エコシステム形成支援事業に採択



現存 141社

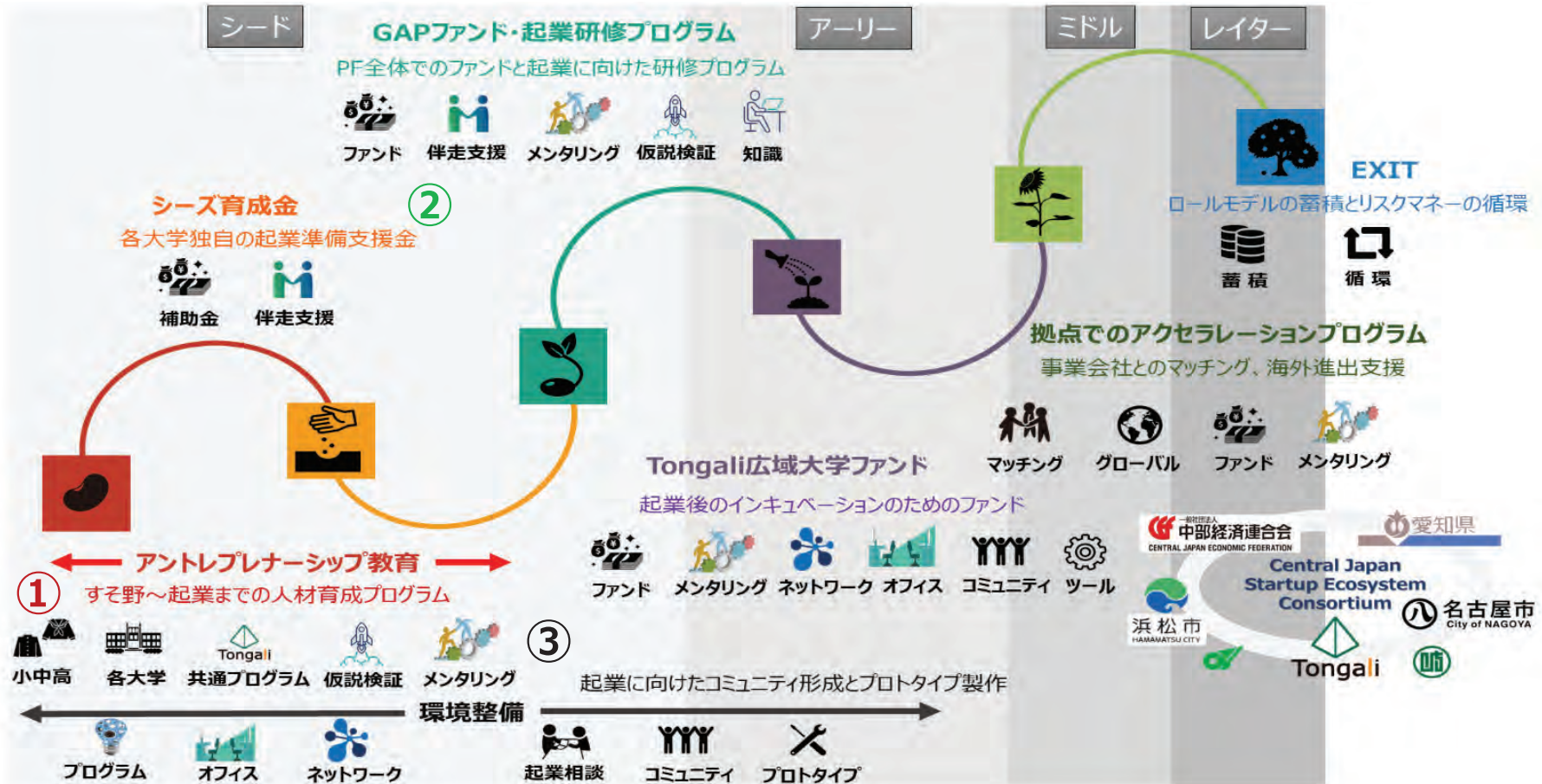
起業数の推移

2023年3月 現在

総数159社のうち、18社が廃業しているが、90%近い企業が現存している。

現存している企業のうち、約75%が研究成果を活用（共同研究型も含む）、25%が学生発のベンチャーである。

2027年に目指す姿



教育、育成～起業支援まで、シームレスなプラットフォームを構築する。

Tongaliとは？

Tokai Network for Global Leading Innovation



東海地区の大学が取り組むアントレプレナーシップ教育と起業支援活動のためのプラットフォームの総称

Vision アイデアとテクノロジーが交わる学校

Mission 未来に繋がる価値を創り、届けることができるトンガット人材を育成する。そして、技術を発掘、支援することにより、東海から世界に向けて、地球・社会や人類の生活を（モノ、心を）豊かにする。



名古屋大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、三重大学、名城大学、中京大学、藤田医科大学、名古屋市立大学、岐阜薬科大学、愛知県立芸術大学、椋山女学園大学、光産業創成大学院大学、愛知県立大学、静岡大学、浜松医科大学、南山大学、豊田工業大学



①アントレプレナーシップ教育



アントレプレナーシップ教育のすそ野を拡大して、イノベーションに繋がる人材を輩出する。

①アントレプレナーシップ教育

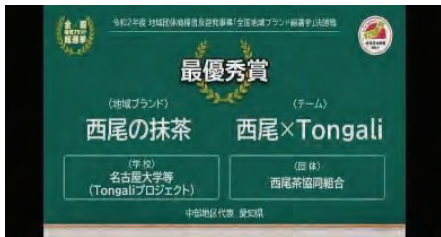
アントレプレナーシップ教育の共通プログラム

学生はだれでも参加が可能。

2020年度は、Tongaliで実施する講義 + 共通プログラムに3,000人以上が参加している。



Tongali
イノベーターズチャンネル



地域連携プログラム



中高生アントレ教育



② 起業支援プログラム

大学の研究成果を事業アイデアに展開

GAPファンドやインキュベーションプログラムによって、研究成果の事業化展開を加速させる。
GAPファンドには、2021年度 21プログラム、2022年度は18プログラムを採択。

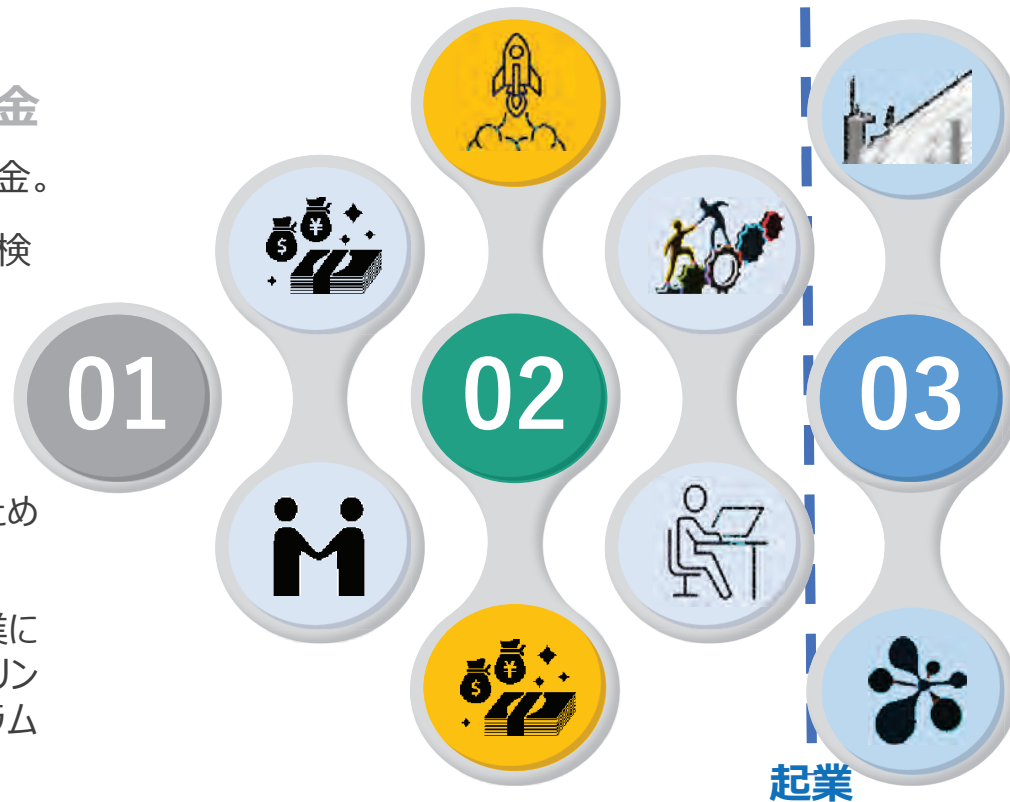
01 スタートアップ準備資金

5大学を対象としたシーズ育成金。
研究成果の事業化の可能性を検討するための補助金。

02 GAP ファンド

Tongaliで実施する事業化のための開発資金。

ビジネスプランの仮説検証、起業に必要な知識獲得と、個別メンタリング等のインキュベーションプログラムも同時に実施する。



03 名古屋大学・東海地区広域大学VF

起業した大学発ベンチャーを対象としたベンチャーファンド。

起業したベンチャーには、“名古屋大学発ベンチャー”の称号授与のほか、学内インキュベーション施設のオフィス支援、様々なネットワークを駆使した顧客やVCの紹介なども実施している。



起業

名古屋大学・東海地区広域大学ベンチャーファンド



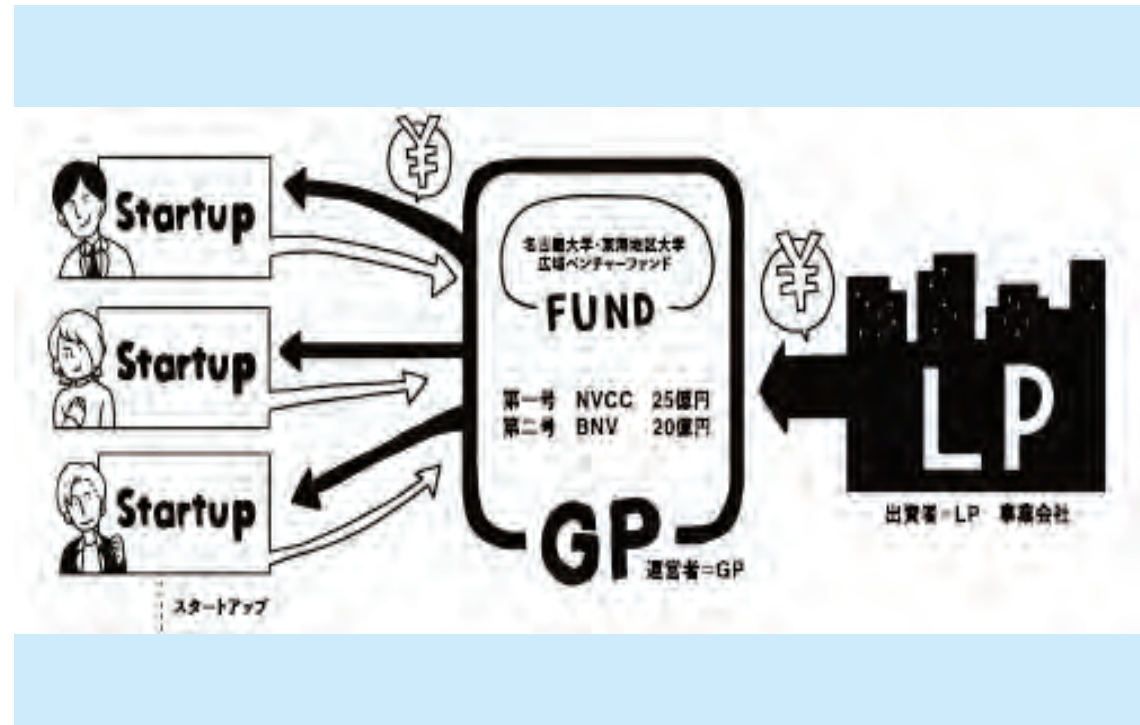
1号ファンド
日本ベンチャーキャピタル（株）
2016年～ 総額 25億円
LPは、地元の金融機関や事業会社を中心に、17社が出資。

2号ファンド
Beyond Next Ventures（株）
2019年～ 総額 20億円



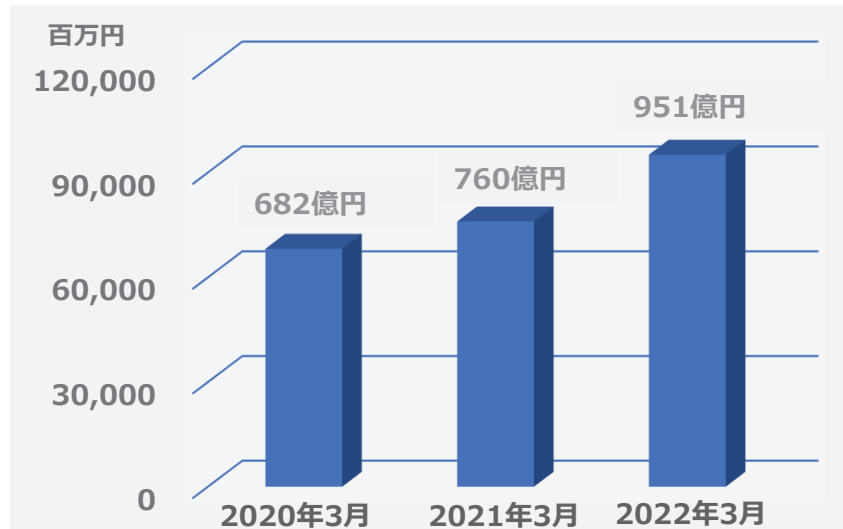
:IPOした企業

名古屋大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、三重大学の5大学発ベンチャーに対するファンド。各大学からの知財の優先開示により、大学発ベンチャーへの投資を呼び込んでいる。GPは大学から独立した形で、出資を行う形で運営を行っている。



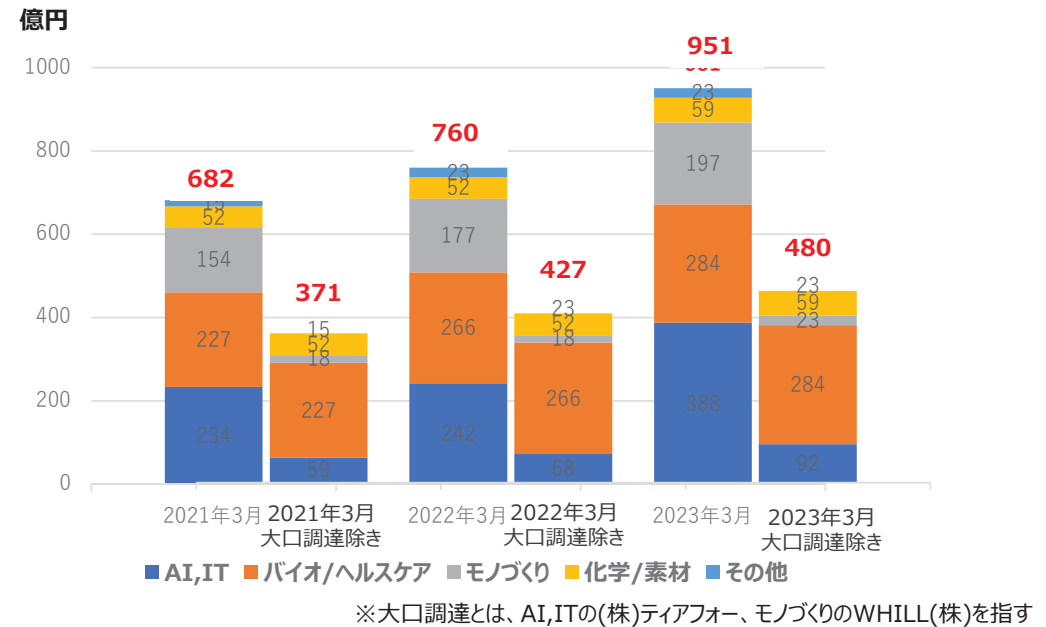
名古屋大学発ベンチャーの資金調達状況

① 名大発ベンチャーに対する累積資金調達額の推移



- ・ 資金調達額は、順調に伸びている (682億円→951億円 / +269億円)。
- ・ 大口調達先2社による調達増加額が過半を占めるものの、それ以外のスタートアップの資金調達金額も順調に拡大 (371億円→480億円 / +109億円)。
- ・ 資金調達を受けた企業は、141社中 **44社**。
- ・ 領域については、「AI,IT」、「バイオ/ヘルスケア」、「モノづくり」が大半。中でも「バイオ/ヘルスケア」については大口調達に偏っておらず、各社が調達している点が特徴。

② 資金調達金額推移のブレイクダウン



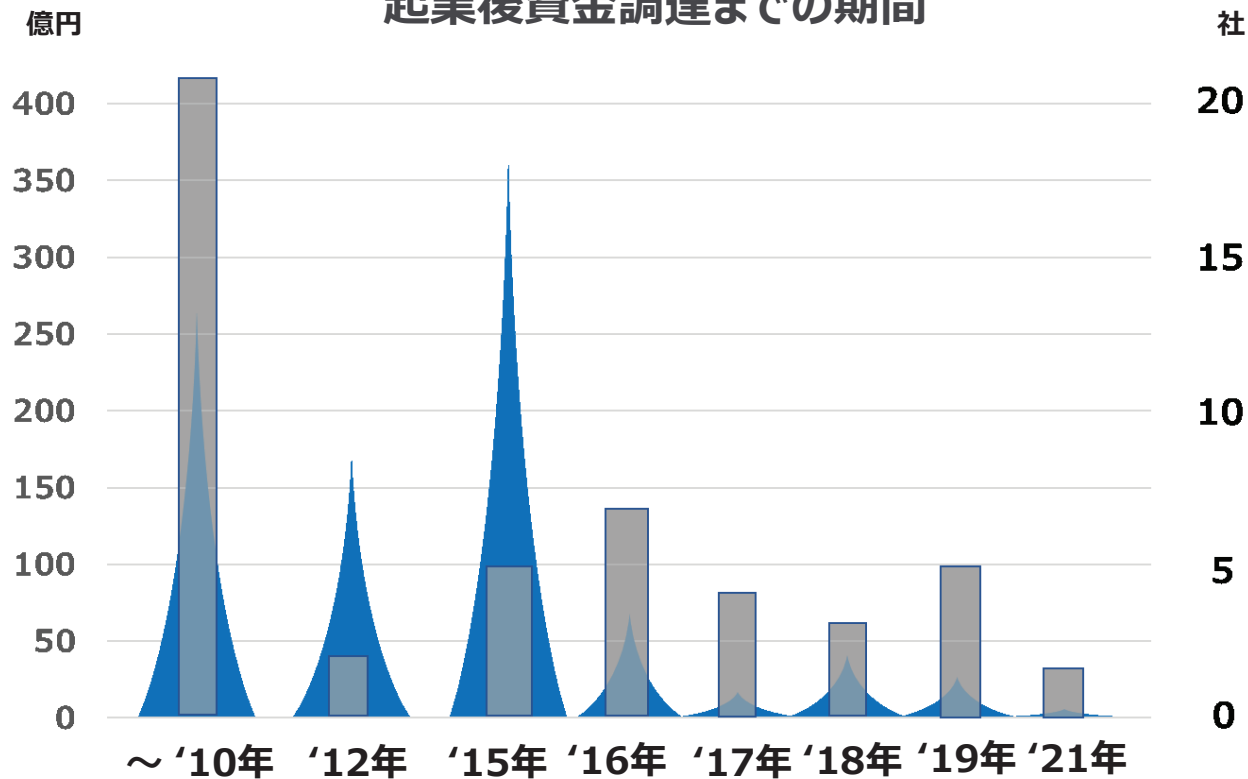
- ・ 「モノづくり」については、大口調達先を除いた場合、過去3か年での調達は5億円 (18億円→23億円) のみ。
- ・ 「AI,IT」については、大口調達はあるものの、それ以外でも相応に調達が進捗 (59億円→92億円 / +33億円) 。

資金調達額については、START UP DB (<https://startup-db.com/>) および、INITIAL (<https://initial.inc/>) で公開されている額を参考に、名古屋大学で独自に調査した数字です。業種は、経済産業省が実施している“大学発ベンチャー実態等調査”で使用されている業種を参考に分類しています。

名古屋大学発ベンチャーの資金調達状況 ②



起業後資金調達までの期間



- ・10億円以上の資金調達した企業のうち、2016年に設立した2社が最短であった。
- ・2016年に起業した7社が、約66億円の調達している（約6年間）。
- ・近年の大学発ベンチャーの1/2～1/3が資金調達に成功したスタートアップである。
- ・IPOは、5社。M&Aは、6社。

- 2015～ 東海地区 5 大学 Tongali プロジェクト（アントレプレナーシップ教育）始動
（豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、三重大学、名古屋大学）
- 2016～ 名古屋大学・東海地区広域大学（5大学）ファンド
- 2017～ 次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）採択
- 2019 Tongaliに参画する大学の増加（9大学へ）
- 2020 世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成計画：グローバル拠点都市認定
- 2020 大学発新産業創出プログラム（START）社会還元加速プログラム（SCORE）
-大学推進型（拠点都市環境整備型） -採択（12大学へ）
- 2021～ 大学発新産業創出プログラム（START）-大学・エコシステム推進型
スタートアップ・エコシステム形成支援 -採択（17大学へ）

EDGE-PRIME 小中高生たちに向けたアントレプレナーシップ教育の展開 (New)



次世代の主人公たちへ！ 探求から探究へのシフトチェンジ
29プログラム 参加 4,000人

Advanced
実践を通じた経験学習

Basic 起業家思考の涵養練習



- ・課題のを見つけ方
- ・アイデアの創出
- ・試行錯誤
- ・ビジネスと社会インパクト
- ・全国高校ネットワーク (WWL、GSC、SSH)

Entry
Advanced
中高校生アントレ研修

Entry
興味・関心への喚起



- ・誤概念の修正
- ・コンピテンシーの向上 (動機と価値観)
- ・新しいことを生み出すための考えと行動



大学発ベンチャー等の参加による
アントレの啓発と交流



そらLab.

成層圏までバルーンを飛ばす課題に対する解決策や方法を考えるワークショップ。

Tongali Jr. Competition

レゴシリアルプレイを用いて、デザインシンキングを活用した課題の発見 ⇒ 抽出 ⇒ 解決 ⇒ 発表までの2ヶ月の研修を実施する。



アントレプレナーシップ教育の実績



	1 st cours (2016年度)	5 th cours (2020年度)	6 th cours (2021年度)	7 th cours (2022年度)
名大での講義（人/年度） <small>「クリエイティブイノベーション講座」教養2年前期、「キャリア形成論」教養2年前期 「ベンチャービジネス特論」工学修士1年前期、「バイオベンチャー論」農学3年前期 「生命と技術の倫理」農学2年、「スタートアップ経営論」経済学3年後期</small>	368	1,038	1,058	2,905/7科目
Tongali全体でのアントレ教育に係る提供科目数（全数（単位化講義）5大学のみ）	17（13）	45（25）	50（26）	84（54）
Tongali全体でのアントレプレナーシップ教育（のべ人）	635	4,398	—	5,842
共通プログラムへの参加者（のべ人）	75	322	644	—
オープンセミナー・シンポジウム（のべ人）	—	2027	4157	—
Idea Pith Contest（チーム）	13	40	52	59
Business Plan Contest（チーム）	13	39	38	47
起業（社）	5	2	8	4

Gapファンドプログラム（昨年度の実績）



2022年度 GAPファンドの研究開発課題の実績

仮説検証
プログラム参加

申請書類提出
→書類審査

プレゼンテーション
審査（二次）

採択
(採択率)

全体		
44件 (学生3件)		
38件 (学生3件)		
30件 (学生3件)		
18件 (学生2件) (41%)		

医療系		
タイプA	タイプB	
4件	17件	
3件	13件	
3件	10件	
1件 (25%)	6件 (35%)	

モノづくり系		
タイプA	タイプB	
3件	20件	
2件	20件	
2件	15件	
1件 (33%)	10件 (50%)	

- ・昨年度不採択チームから8チームがタイプBに応募
- ・昨年度採択チームから7チームがタイプAに応募



採択チームの事業テーマは、STSTで見られます。



イノベーション、スタートアップを目指す方々のコミュニティ形成に向けて

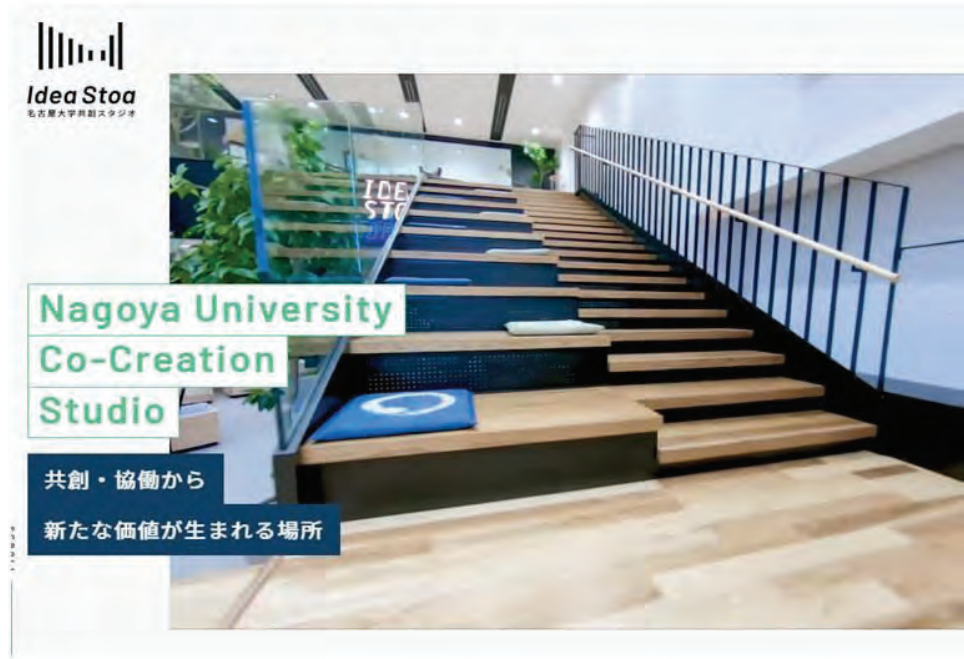


Idea Stoaの改築（NIC館1階）

“イノベーションのゆりかご”

イノベーションに繋がる挑戦が生まれる場所として、2022年10月にリニューアル。多彩なインセプションプログラムやイベントを通して、アイデアの着想やコミュニティを形成していく場を目指す。

2022年度の利用者（Fab機器も含む）は、半年間で延べ約3,800名。



- 他にはないオープン型の共創空間
- 多目的な利用が可能
- イベント×ワーク×ファブ×コミュニティ



刺繍用マシン

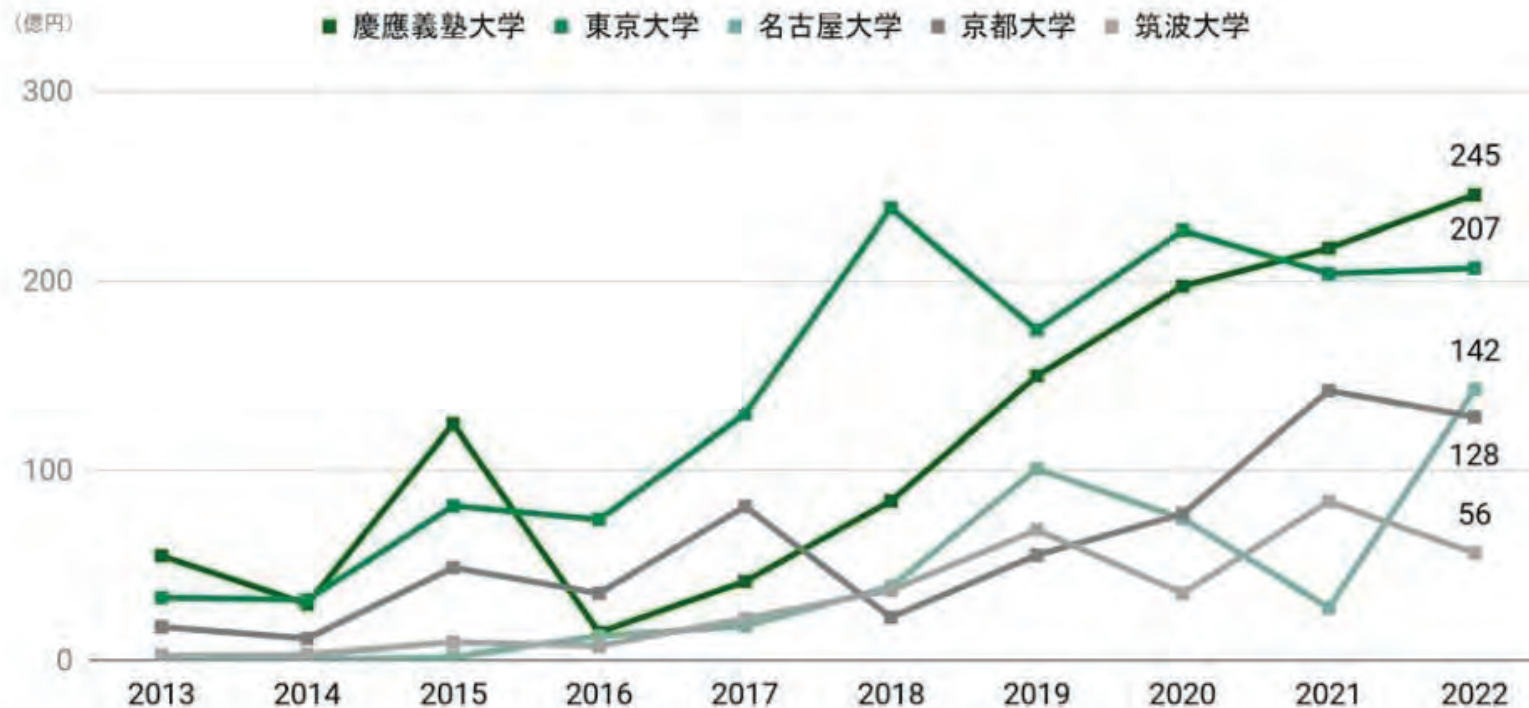


レーザー加工機



ガーメントプリンター

参考：主要大学の大学発スタートアップの資金調達推移



注1) 各年の値は集計時点までに観測されたものが対象

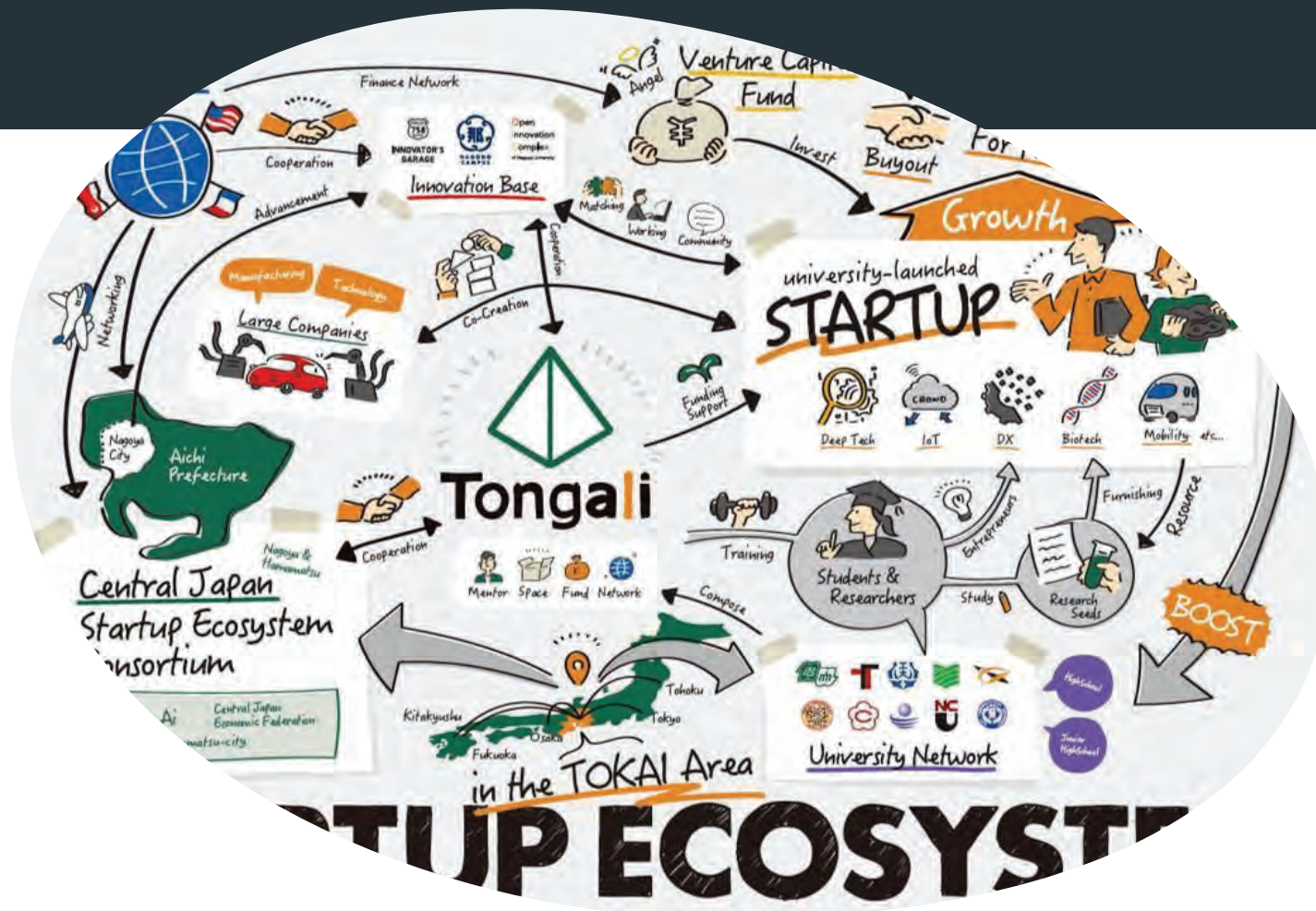
注2) データの特性上、調査進行により過去含めて数値が変動する。調査進行による影響は金額が小さい案件ほど受けやすく、特に直近年ほど影響を受けやすい

注3) 大学発の定義は巻頭定義参照

注4) 複数大学によるものはそれぞれに計上しているため、大学発全体の合計とは一致しない

出所) INITIAL (2023年1月19日時点)

出典：JAPAN Startup Finance 2022 (Initial社)



Tongali からはじまる
Tech Innovation
Smart Society
の実現



